

## はじめに

京都府における子どもの体力・運動能力の現状は、項目によって多少の上下はあるものの、概ね全国平均値に近い状況となっています。しかし、全国調査の結果から昭和60年度と比較可能な種目について見ると、男女とも反復横とび以外の種目では、50%以上の児童が平均値を下回っているという結果が出ています。

体力低下の原因としては、体力に関する国民の意識の問題、都市化・生活の利便化などの生活環境の変化、睡眠や食生活などにおける子どもの生活習慣の乱れといったさまざまな要因が絡み合い、結果として子どもがからだを動かす機会が減少していることが指摘されています。(平成14年9月中央教育審議会答申)

また、平成20年3月告示の学習指導要領においても、引き続き、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成が目標とされ、知・徳・体の調和のとれた育成を重視することが示されました。確かな学力『知』は、豊かな心『徳』と健やかなからだ『体』といった基盤があつてこそ身に付くものであり、体力の向上はあらゆる活動の源となる意欲や気力の充実につながることが再認識されています。

しかし、ただ単に新体力テストの数値のみに着目し、数値を上げるために体力トレーニングを課すだけでは、子どもたち自身が運動やスポーツ活動を好きになり、自らが進んで運動やスポーツ活動に親しむ習慣は身に付きません。

そこで京都府教育委員会では、新体力テストの数値だけでは計り得ない子どもたちの基本的な身体動作の獲得状況を適確に把握・分析した京都府独自の指標『京の子ども元気なからだスタンダード』を作成しました。子どもたちにとっても、学校の教員、保護者にとっても、日常生活に即して分かり易く、子どもたち自身が、自らの身体の動きや体力の現状に向き合い、積極的に運動やスポーツに取り組むことができるような指標となっています。

各学校が、スタンダードに基づく提案を積極的に活用していただくことによって、子どもたち自身が運動やスポーツ活動を好きになり、生涯にわたってスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」実現につながることを期待しています。

なお、「京の子ども元気なからだスタンダード」作成に係る取組概要、体育学的検証過程及び京の子どもの体力等の状況をまとめた別冊「京の子ども元気なからだスタンダード」参考資料も併せて御活用願います。

終わりに、スタンダード作成に当たり御協力いただきました関係者の皆様をはじめ、調査に参加・協力いただきました小学校及び市町教育委員会の皆様に心からお礼申し上げます。

平成22年3月

京都府教育庁指導部保健体育課長